

ロシア史研究会の歩み(1956-2006)

年	主な事項（二重カッコ内はロシア史研究会以外の出来事）	会務担当世話人／ 委員長*3)	雑誌編集責任者 *4)	雑誌刊行*6)
1956	2.25第1回例会 《スターリン批判。日ソ国交回復》	倉持俊一	—	
1957				
1958				
1959				
1960	大会（初期には「研究総会」と呼ばれていた）始まる。 《60年安保》	菊地昌典	和田春樹	第1号
1961				2, 3, 4
1962				5, 6, 7
1963				8, 9
1964	《フルシチョフ失脚》			10, 11
1965	ロシア革命研究合宿			12, 13
1966	ロシア革命研究合宿（2回）			14, 15
1967		長尾久	藤本和貴夫	16
1968	江口朴郎編『ロシア革命の研究』刊行 《大学闘争。チェコ事件》	広瀬健夫		
1969	『ロシア革命の研究』書評合宿			
1970				17
1971	大会再開*1)			
1972		庄野新		18, 19
1973	第1回日ソ歴史学シンポジウム（以後、隔年開催）		田中陽兒	20, 21
1974	《ソルジェニツィン国外追放》			22
1975				23, 24
1976				25
1977				26
1978				27, 28
1979	ソビエト史研究会発足 《ソ連のアフガニスタン侵攻》			29, 30
1980				31, 32
1981				33, 34
1982	《ブレジネフ死去》		佐々木照央	35, 36
1983		荒田洋		37, 38
1984			島田孝夫	39, 40
1985	規約改正。委員会制度発足 《ゴルバチョフ書記長就任》	荒田洋（委員長）		41
1986	30周年記念シンポジウム 《チェルノブイリ事故。ペレストロイカ始まる》			42, 43, 44
1987		荒田洋（再選）	和田春樹	45
1988				46
1989	《東欧諸国で激動。マルタ会談で冷戦終焉を宣言》	外川継男	鈴木健夫	47, 48
1990	ニューズレター創刊（原則として年4回）*2)			49
1991	《8月クーデタ。12月にソ連解体》	外川継男（再選）	鈴木健夫	50

年	主な事項（二重カッコ内はロシア史研究会以外の出来事）	会務担当世話人／ 委員長*3)	雑誌編集責任者 *4)	雑誌刊行*6)
1992	講演会「ソ連邦解体とわれわれ」（1月）、講演会「日露交渉200年を考える」（12月）			51, 52
1993	ロシア史研究会編『日露200年』（彩流社）	和田春樹	長縄光男	53
1994	《「第1次チェチェン戦争」始まる》			54, 55
1995		長縄光男	高橋清治	56, 57
1996	40周年記念シンポジウム			58, 59
1997	ホームページ開設	富田武	石井規衛	60, 61
1998	はじめて東京圏以外で大会開催（大阪大学）			62, 63
1999	日本学術会議の登録学術団体となる。日本ロシア・東欧研究連絡協議会（JCREES）発足	鈴木健夫	佐々木照央	64, 65
2000	《プーチン政権発足》			66, 67
2001	《9. 11事件》	佐々木照央	横手慎二	68, 69
2002				70, 71
2003	《イラク戦争》	高橋清治	栗生沢猛夫	72, 73
2004				74, 75
2005		塩川伸明	栗生沢猛夫	76, 77
2006	大会の一環として50周年記念企画		中嶋毅*5)	78, 79（予）

\*1) 大会が一時滞った事情は明らかでない。

\*2) これ以前には不定期の会報が刊行されていた。

\*3) 1985年までは会務担当世話人、その後は委員長。なお1986年まで会長職がおかれており、江口朴郎が一貫してその座にあった。

\*4) 雑誌編集担当者の欄は、その年に選出された委員を記したが、雑誌の編集・刊行は前任者による場合があるため、その年の号がこの編集長によるとは限らない。

\*5) 任期途中で交代。

\*6) 18号に1-17号、26号に18-25号、39号に28-38号、40号に21-39号、50号に1-49号、60号に50-59号の総目次が載っている。